

. 選定種の解説 Species Accounts

種の和名, 学名, 科名, および種の配列は動物群ごとにそれぞれ下記の文献にしたがった。ただし, 当該の種について, 下記の文献以後に適切な分類学的改訂がなされている場合には, それを採用した。

哺乳類

阿部 永(監修)(1994)日本の哺乳類 東海大学出版会(東京), 195pp.
 日本哺乳類学会(編)(1997)レッドデータ 日本の哺乳類. 文一総合出版(東京), 279 pp.

鳥類

日本鳥学会(編)(2000)日本鳥類目録 改訂第6版. 345 pp.

両生類, 爬虫類

環境庁(編)(2000)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物.(財)自然環境研究センター

淡水魚類

川那部浩哉・水野信彦・細谷和海(編)(2001)山溪カラー名鑑 改訂版 日本の淡水魚. 山と溪谷社(東京), 719pp.

昆虫類

平嶋義宏(監修)(1989)日本産昆虫総目録. 九州大

学農学部昆虫学教室, 1767 pp. (全体の配列)
 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木司(1999)原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑, 北海道大学図書刊行会, 917 pp. (トンボ目)
 伊藤ら(編)(1977)原色日本昆虫図鑑 全改訂新版(下巻)保育社(大阪)(半翅目)
 上野俊一ら(編)(1984-1985)原色日本甲虫図鑑(II-IV). 保育社(大阪)(鞘翅目)
 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三(編)(1992)日本産カミキリムシ検索図説. 東海大学出版会.(カミキリムシ科)
 矢田 脩(1998)日本産チョウ類のデータ・バンク. pp. 211-270. In: 日本環境動物昆虫学会(編)チョウの調べ方. 文教出版(大阪)288 pp.(チョウ類)

クモガタ綱, 多足類, 甲殻綱

環境庁(編)(1993)日本産野生生物目録. 無脊椎動物 I. (財)自然環境研究センター(東京), 106 pp.
 谷川明男(2001)日本産クモ目録Ver/2001R1. ([http://www.asahi-net.or.jp/~ dp7a-tnkw/](http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/)) (クモ目)

陸産・淡水産貝類, 海綿動物門, 扁形動物門
 環境庁(編)(1998)日本産野生生物目録. 無脊椎動物 III. (財)自然環境研究センター(東京)49 pp.



選定種の解説内容

種ごとの記載項目と内容は、次のとおりである。

(1) 種名

種の和名と学名，目名と科名を表示。

(2) カテゴリー区分

鳥取県カテゴリーおよび環境省カテゴリー（環境省新版レッドリストでのカテゴリー。「」は、環境省版レッドリストに掲載されていないもののそれぞれ名称と記号を記載。スペースの都合で、「その他の保護上重要な種」は「その他の重要種」と略して表示されている。

(3) 選定理由

選定の主な理由を記載。

(4) 形態と生態

選定種の特徴を示す形態，生態的特性等について記載。概要的な内容は原則としてここに含めた。

(5) 分布

（県内）：鳥取県内での分布の概要を記載。（県外）：国内および国外での分布を記載（原則として「国内；国外」で表記）。

(6) 生息環境

選定種の主な生息環境を記載。

(7) 保護上の留意点

選定種の鳥取県における現在の生息状況，減少の要因等を踏まえ，その保護および生息地の保全を図る上で留意すべき主な事項を記載。

(8) 特記事項

天然記念物指定など法令等に基づく指定種，その

他，上記の項目で記述できなかった事項を記載。

(9) 文献

必要に応じ主要な参考文献を3編以内で掲載。ここに頻度が高く引用されている「鳥取県のすぐれた自然（動物編）」は、「江原昭三・鶴崎展巨（編）（1993）鳥取県のすぐれた自然（動物編）鳥取県衛生環境部自然保護課発行327pp.」のこと。

(10) 写真

形態あるいは生態がわかる写真を掲載。なお，撮影者名等を記載。氏名の表記をとみなわない写真は執筆者本人の撮影による。

(11) 県内分布図

分布の概略図を掲載。分布点は，おもに，鳥取県野生生物生息実態調査事業で集積された採集・目撃記録から構築されたデータベースに登録されているデータに基づく。このデータベースは採集または生息確認の日付データ（最低でも年まで）をとみなわない記録は拾われていないため，本文解説での分布の記述とは一致しないことがある。なお，プロットは「1969年まで」，「1970～1989年」，「1990年から現在まで」の3期間でマークをわけて表示されている。「1990年から現在まで」のマークがもっとも多い場合でも，たいていの場合それは単に古い時代のものについては記録が少ないためであって，最近になって生息地を拡大していることを意味するものではないので，注意していただきたい。一部の種は保護上の理由から分布図掲載は省略した。また「情報不足」についても分布図の表示を省略したものがある。